

亀岡市循環型社会推進審議会 会議記録

会議名	第53回会議
日時	令和5年1月12日(木)午前10時00分～12時00分
場所	亀岡市役所 3階 302・303会議室
出席委員	別添名簿13名のうち10名
事務局	10名
傍聴	0名
次第	
1 開会	
2 会長挨拶	
3 審議事項	
(1)一般廃棄物処理基本計画の策定(改定)について(その3)	
・亀岡市ごみ処理基本計画	
・亀岡市食品ロス削減推進計画	
4 連絡事項	
(1)次回の審議会について	
5 その他	
6 閉会	

会議の概要

■事務局

定刻となりましたので、只今から第53回亀岡市循環型社会推進審議会を始めさせていただきます。

皆様方には、大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

開会にあたり、会長より挨拶を頂きます。会長、宜しくお願い致します。

■(会長挨拶)

■事務局

当審議会の運営につきましては、審議会条例施行規則第5条第2項により、委員の半数以上の出席がなければ会議が開催できないと規定されています。

本日は、委員13名中10名の出席をいただいております、半数を超え、本会議が成立していますことをご報告致します。

なお、本日は本市が計画策定業務を委託している事業者がオブザーバーとして参加しております。

続きまして、お手元資料の確認をさせていただきます。事前に送付させていただいた資料として

資料 亀岡市ゼロエミッション計画 ごみ処理基本計画(案)

資料 亀岡市食品ロス削減推進計画(案)

がございます。

なお、亀岡市食品ロス削減推進計画(案)は事前に送付させていただきましたが、若干修正を加えたことからお手元に最新版をお手元に置いております。審議の際はこちらを参考にいただければと思います。

資料の不足はございませんか。

それでは、亀岡市循環型社会推進条例施行規則第5条第1項に基づき、会長に議事進行をお願いしたいと存じます。会長、よろしく申し上げます。

■会長

それでは、次第に沿って進行させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

早速ではありますが、本日の審議事項の1つ目、「一般廃棄物処理基本計画の策定(改定)について(その3)」について、あわせて「亀岡市食品ロス削減推進計画」も含めて事務局よりご説明させていただいた後に皆様からご質問ご意見いただきたいと思っております。

■事務局

それでは、亀岡市ごみ処理基本計画(案)の策定について、ご説明申し上げます。お手元の資料、「亀岡市ゼロエミッション計画 ごみ処理基本計画(案)」の冊子をご覧くださいと同時に画面のほうをご覧くださいまして、画面に沿ってご説明させていただきたいと思います。

—資料を用いて、説明—

続きまして、亀岡市食品ロス削減推進計画(案)について、ご説明申し上げます。(スライドをご覧ください。)

—資料を用いて、説明—

事務局からの説明は以上でございます。

■会長

只今の説明について、ご質問、ご意見はございませんか。

■委員

前日も意見が沢山あり、わかりやすくなったのは嬉しく思っています。その中で気になるのは、すばらしい計画になっており、目標も具体的に定められて、市民や事業者によりやすいと思いますが、現実的に、目標を実現していくためには、善良な市民・事業者だけではありませんので、不適切排出が増えたり、不法投棄に繋がったりすることが出てくると思います。先ほどの説明の中にも、例えば、ぼい捨てごみ対策強化についても盛り込んでいただいておりますが、書いてある内容としては起こったものを処理するだけの話であって、起こらないようにすることではないと思います。不法投棄や不適切排出を減らす方策というか、この計画に書いたらいいのかどうかは僕もわかりませんが、どこかで考えておかないといけないと思います。不法投棄をこれだけ減らす、効果をこれだけ増やすといった目標も書いた方がよいと思います。

■事務局

今おっしゃっていただいたように、ちゃんと出してくださる方も結構おられるのですが、4月の分別拡大に向けて広報を始めていますが、そもそもごみに関心がないがごとく、関心がないから燃やせそうなごみは燃やすごみに、埋め立てられそうなごみは埋立ごみにということがあります。なので、説明会を頻繁にやる中で、さらに説明会の必要性を考えています。分別拡大が進むということはごみに対する意識が高まるということになりますので、当然、不法投棄も減ってくると思います。ただ計画を立てて終わりというわけではなく、のちに必要な、例えば、計画には書いていなくても目標値を、効果なり、設定するなりは必要です。

また、やはり市民とのコミュニケーションを積極的にとる必要があると思います。説明会に来て

下さる方は関心があり、真面目にしてくださると思うが、一方で大きな問題として、自治会単位で説明をさせてもらっているものの、自治会に入らない方もおられて、なかなか情報が届きにくいですし、施策としてそういう方へ向けて別途説明会を設けて、計画だけではなく継続して説明会なり情報発信をしていきたいと思います。

■事務局

計画として、エコウォーカーは2030年に5000人という個別の目標があります。

■会長

集積所に関して、町内会に入っていない方が「そこを使うな」と言われて、やむなく不法投棄をしておられる現場に遭遇したことがあって、そういうことをしたらあかんよと話を聞いてみると、そういう事情があると。町内会費も払っていないし、ごみの集積場所の掃除当番ももしかしたらしていないかもしれないので、そういう人に使わせたくないという地域の気持ちもわからないではないです。しかし、自治会とごみの集積場所はイコールではなく、市のごみ収集サービスを受ける場所であってそれとこれは別の話ですよ、ということがあってもよいと思います。つまり、自治会に入っていない人でも、ごみは出してもよいでしょ、と。お金払っていない人でも、ごみ当番くらいはしてもらってもいいでしょ、と。もしかしたら市役所にもそういった相談が来ているかもしれませんが。たぶん私が聞いた範囲では、地域でそこは相談してくださいと市役所はお返しになっていると聞いている。もう少し、半歩くらい踏み込んで。

■事務局

今おっしゃったように、ごみ集積所のルールがあります。例えば若干の負担金を払わなければならないとか、掃除当番をしなければいけないとか、そういうルールに従って、自治会加入とか関係なく、使えるように協議してください、と。もし、そういった話がしにくかったら、私たちも間に入りますので、ご案内はしています。ただ、時代の流れか、なかなかトラブルが多いというにも聞いています。

■会長

多分に感情的なものですからね。

例えば、大阪市は1軒1軒ごみを集めておられて、かなり非効率になりますが、それは住民サービスとしてやっておられる。財政力があるともいえますが。あるいは京都市なんか一部そういったことをしておられる。そうしたら、変に混ぜるごみが減るそうです。つまり、自分の家の前にあるごみなので誰の出したごみかすぐにわかるので、責任感が生じて。収集コストは上がるけど、ごみの混入率は下がるので、どっちをとるかなんですが。

場合によっては、町内の集積場を使えない人には、個別に家の前で有料の収集はできないものですかね。

■委員

例えば、集合住宅は個別に契約しているので技術的には可能だと思います。しかしむしろ、今自治会管理となっているものを、自治会とは独立した、衛生自治会と呼ぶべきかわかりませんが、自治会とは独立したものを作っていたら、先ほど言われたような、啓発であったり情報発信であったりというルートでできるようになるかと思います。既存の自治会と重ねると、自治会入っていない方は漏れてしまうという問題が起こってくるので。

自治会に入る、入らないはおそらくお金の問題だと思うんですよ。町内会に入ってもメリットのない、どうしても入らないといけないの、という形に入っていない人が多いのだと思うのですが。そこを別の組織形態を別の形につくって、会費もなしで、そこに住んだら強制加入といったらおかしいかもしれないけど、必ず入って、いろんなことを決めたり情報共有したりできるものがあるのかなと。今もう自治会の力がどんどん弱まってきているので、今言われたようなことをしていくには新たな枠組みがあるのかなと。

■委員

今のお話が現実的な話かなと思うけど、うちの自治会でも6割くらいの加入率だと思います。毎年、加入するところができています。逆に、長い間日本の運営システムのなかで自治会が果たしてきた役割を切り捨てるのがもったいない、そこで包み込める、うちなら集落のなかで自治会を中心にしながら運営していけるわけですよね。それを活性化していける手はないかな。うちはずも格闘している。聞いてほしい人が来なくて真面目な人が来るんです。核となって土台となる場所が必要だと思います。新しい形のものを作るにしてもやはり自治会単位の旗振りを役員にしてもらわないとできないと思うので。ソフトランディングというか、ゆっくりと移行できるように準備を足踏みしながら、だけど既存の自治会が逆に活性化していけるようにこれを利用してもらったらいいのではないかなと。発想の逆転を考えたほうがやりやすい、という思いでやっています。

私、職場に行くとき町じゅうをまわります。町の人たちがどんな出し方をしているのか見て回るんです。ここはきれいだな、きれいなところは声をかけあっているんですよ。変な出し方をしたら言わずに外へ出す。一方ではどんなに言ってもやらない人はいる。多くは「これはやってはいけなだな」と。基本は、自治会を頼って、自治会に入れへんという心の狭いのはちょっとどうかと思います。自治会に入っていようがまいが、自分たちの住む地域は自治会が守る、という意識を自治会が持つほうが早いのではないかと思っている。

■会長

みなさん、他に課題がありますか。

■委員

自治会の話は、高齢者の方が多くて、毎年何かやらないといけないくらいに、やってもらえる人がいない。役員をやってもらう人がいない。2月になったらどうしようかなと思うくらい。自治会自

体が存続できるのかと思うくらいの状態なんです。子ども会も今年でなくなるんです。子どもがいなくて、80歳以上の人たちに役員やってくれって言えない。そうってしまったときに40代50代の方が抜けてしまうんです。学校の先生やっている方とかは朝が早いので、既定の時間にごみを出せないとなる。当番がまわってきてても前の晩にごみを出すので、朝7時に網を出しても間に合わなくて、カラスが荒らしたりして。誰か気づいた人が掃除するけど、「いつも私がやってる」という心情にもなるんです。結局、自治会単位でやるというのは、基本としては良いと思うんですが、自治会の役員をする人には対価があると聞くけど、役員をやる方にはなにかしら対価が出るってしないとやらない人が増えてしまう。ごみ以前に、自治会がなくなるんじゃないかなと。

■委員

自治会そのものが、何のためにあって、何ができるのか原点に立ち返ったら、ごみのことは自治会の中心的な仕事になっていると思うんです。そこの仕組み作りが重要。今までのように、体振員とか、運動会するとか誰もやりたくないし、溝掃除するとか、何も無いのに、自治会が何をしているかよくわかっていないのにずっと存在していて、少ない人数で役員がまわってくるんでしょってなるけど、本当は地域の衛生を守っていくとか大事なことをやっているの、そういったことに力点を置いた自治組織が求められていることではないのかなと思います。

■会長

うまくいっている自治会では、既存の自治会・町内会にうまくその役割を担っていただいてもいいし、今の自治会では難しいというところでは、場合によっては別の組織、新しい組織なのか、謝礼なのか、集積場所を整理する補助なのか、形は分からないですけど、地域でみんなで気持ちよくごみが出せるような。

うちの町内でも賃貸にお住まいの方は、自治会には入っていないけど町内会には皆さん入ってくれている。なぜかという、ごみ出したり、街頭の電気代とかは払わないといけないよね、と。

地域によって事情は様々だと思うので。文言は今、思い浮かばないが、13ページの基本方針5のところ、みんながごみを出せる仕組みづくりを、今すぐに答えが出るということはないと思うが、ごみ出しを支援できるしくみづくりを検討しますということはいってもいいのでは。

■委員

自治会だけ、あるいは区だけで全体的な把握ができるかといったら現実にはしんどいと思うんです。それをソフトに、適宜の段階にできるように10年前にまちづくり協議会をつくっているんです。そこで相対的なプランを出せるような、次に移行できるものをつくっていかないと、急には移行できないと思うのでそのバランスが大事だと思います。

■委員

町によって全くちがうと思うんです。我々田舎の方はごみについても、ごみ当番が順番にまわってきて、変な出し方をされていたら自分で直す方もいらっしゃる。ある面では、自治会の加入率も

98、99%なんですね。だから、確かに自治会に入らないという動きもあるんですけど、川東地区の田舎の方では自治会組織の参加率が高いので。

もともと自治会の仕事としては亀岡市の出先機関と一緒に、配布物を配るとかがメイン。それ以外には、河原林町まちづくり会議というもの。それも自分たちでやろうと。うつくしい街づくり、そこではいろんなことをやるということもあってですね。

自治がすべて同じような形で認識してもらってもいいんですけども、自治会がないと市と行政も困ることもあるんじゃないかなという気がするんです。

あたらしい人が入ってくる町とそうでない町とで考え方が当然違うということがあると思う。意識についても、結構違う。前回の説明会、分別の話なんかでも積極的にやろうとしてくれています。いろんな自治会があるということだけ認識しておいてもらいたいなという気がしています。

■事務局

行政としても自治会にはお世話になっている。衛生団体がもとの自治会から離れていってしまう、痛し痒しという部分があったりして。

ゼロエミッション計画でもう一度コミュニティのつながりをつくっていくことも環境政策の大きな柱の1つだと思っています。深いところへ踏み込んでいくところもありますので、環境というキーワードで、コミュニティを探っていきたいと思います。

■委員

少し気になったのは、最初のページで、左から右へ上がって行くというところで、説明を聞いて初めてわかって、将来が右へ上がって行くということが絵をみただけで理解ができなかったの。

例えば、資源化率50%目標というのが令和15年にありますね。令和4年と書いてあるから目標はないということ。

それから令和15年は2033年ですわね。CO2削減50%削減が2030年、3年前に達成するようになっていて、このCO2削減についてなにも書いていないんでね。資源化率50%という目標の話が出ているなかで、施策としてはここを明確にしないと。CO2削減の目標は3年前に終わっているじゃないか、となってしまうんでね。

それと、あとのほうで令和と西暦が並列されているんですけど、間違う形になるので読みやすいほうにしたほうがいいか。

あと、気になるのは財政収支の改善とか、子育て支援・福祉・教育等というのが、ごみ処理のなかで取り上げていいのかどうか、という。

あともうひとつ、施策がなければ、少子高齢化等による財政が悪化しますという表現が下に挙がっている。子育て支援・福祉への多様な政策展開をすると赤字になるんですよ。下にそう書かれているので、説明不足かもしれないけど。子育て支援に多様な政策展開します、この政策がなければ、下になるという流れですよ、図の見方としては。

■会長

そうではなくて、ごみを減らすことで、環境もよくなるし、財政面での負担も減るから、子育て支援や福祉とかにお金が回せるようになりますよということですね。

■委員

それをすると、少子高齢化や財政収支が悪化するというのは。

■会長

下のほうは少子高齢化と書くより、人口減少と書くほうが適切なんじゃないですかね。

■委員

そういう表現でないと、少子高齢化の少子の子育て支援という相反するものという捉え方をするんじゃないかと。

もうひとつ、防災の脆弱さというのをここで書くと、今、防災力は異常気象なんか言われている中で、これと上とどういう関係があるのか。これを書かれると心配ですよ。だからこの書き方は注意していただきたいと思います。

■会長

ご指摘の点は、上と下で、一対一で対応してなくてわかりにくいということですね。

■事務局

イメージとしては、会長がおっしゃっていたように、みんながちゃんと分別してもらって、ごみの管理をやってもらうことによって、例えばそこにかかる費用が減ったりすることで、次に福祉とかに使えますよ、というイメージなのですが、確かに言われるとぱっと見、わかりにくいので、そこをもうちょっとわかりやすくしようと思います。

■会長

今の話しでいうと、26 ページ、28 ページのところ、現状のままとか、減量・資源化を推し進めた場合に、それぞれ目標を設定して頂いていると思いますが、これはこれで結構なのですが、例えばそれによってどれくらいのごみ処理削減費用が見込まれるのか、あくまで今の前提でしか計算のしようがないというのもあると思うのですが、それを参考として目標にしてしまうとややこしくなってしまうのですが、例えば単位あたりのごみ処理費用が、現状のままと仮定していくら減らせますよ、というのが参考としてあったら、分かりやすくなるんじゃないですかね。

■委員

大事な指摘だと思います。単純明確化しておくことも大切だと思います。

■会長

委員のもう1つのご指摘で、資源化目標が50%越えというのが真ん中であって、ピンクの大きな丸の方にはCO2削減目標が2030年とある。せっかく、3ページの右下の図には、さらに将来は資源化率80%を目指しますとあるじゃないですか。これも、「80%達成も現実味を帯びてきます」ではなく、「将来的には80%目指します」くらいで良いと思うんです。それがピンクの中に「将来的には80%目指します」と書かれていると、多少、5年程度の時期のずれはあってもわかりやすくなるんじゃないかなと思います。

■委員

もう1つ、原点に戻って。前回、基本理念が決まりましたけれど、基本理念というのは計画の趣旨ですね。「それってごみ？」がキャッチフレーズやスローガンのものかなと思ったけど、資料をもらって見てゼロエミッションというのが目指す計画だと明確に書いている以上、その基本理念がここになにもない。「人と資源が環る(めぐる)」の「環る(めぐる)」という字の意味を調べたら、環境と循環の両方を表現する漢字だということだったんですが。しかし、「めぐる」とはなかなか読めないだろうと思うのと。

それと「人と資源が環る(めぐる)」というのがいいのか、人がめぐるってしまうとどうなるんだろう、とか、資源がどうめぐるかと理解できるのか、とか。例えば、「ごみと資源がめぐる」というのは意味がおかしいのか。理念なので、目指すべきものがわかる形にできないかなと、後戻りする意見になるけれど。

理念と基本方針とくるわけだから、基本方針は理念に基づいて作る感じですよ。

人と資源がめぐる、持続可能なまち作りというのがひとつだと思うんですけど。「人と資源がめぐる」というのは、ごみと言っているのか、本当はそうじゃないよね、というところが、基本理念として考えるべきスタートにあると思います。そこは議論した方が良くないかなと思います。

■委員

文言的な並びでいったら、今、委員がおっしゃったように「ゼロエミッション それって本当にごみ？循環可能なまちづくり」のように整理するときれいかもしれない、わかりやすいかもしれない。今、ご提案いただいたように「ゼロエミッション それって本当にごみ？持続可能なまちづくり」みたいな感じでやったら分かりやすいと思います。「人と資源がめぐる」は取ってしまったら。

■会長

下に「みんなで力を合わせて」と書いてあるので、別に齟齬はないですよ。

■事務局

そういう表現の方は会長・副会長に最終確認させていただいてパブコメに出すんですけど、基本理念の部分に関して決めて今日決めていただいたら。

■会長

例えば3 ページのところ、「亀岡市ゼロエミッション計画は次のステップへ！」とあるが、このフレーズはこれからも色々な広報資料なんかにお使いになるんですかね。もし、これを基本理念の青で囲った部分とセットで展開するんでしたら、下のところにもう一度「ゼロエミッション」と出てきたらごちゃごちゃするなという。

■事務局

もともと今ある計画がゼロエミッション計画ですので、新たな計画というかその見直しです。その意味ではゼロエミッション計画としては続いていく。グレードアップしていく。

■会長

資料にあるような青で囲われた部分とバンザイしてるみたいな感じで「次のステップへ」というのが、絵的にセットで使われるのかどうか。

■事務局

これはセットで使う必要はない。

■会長

使ってもいいかなと思うのですが、「ゼロエミッション」と何度も出てきて混乱するかなと思ったんですが、使わないなら、逆に理念のなかに「ゼロエミッション」を入れて表現した方がいいかなという気がしました。これからの広報展開をどう考えておられるのかと思ったのですが。

■事務局

「次のステップへ」ということで、段階を上げていくというイメージは残したい、という思いはありました。

それと、「人と資源がめぐる」というところなんですけど、思いとしては、人がつながるコミュニティの構築ですとか、世代間でつながる教育、それからサーキュラーエコノミーの資源循環というのがこれからテーマになってくるので、人と資源をめぐらせる、つなげていく、という思いが込められていたというのがあります。議論の参考にさせていただければと思います。

■委員

コミュニティとかそういった意味の説明を聞くとわかるんですけどもね。「めぐる」と聞くと基本的には循環資源のことで、ゼロエミッションそのものは再生産ですよ。人と資源がめぐるってわかりにくい。説明を聞けば分かるんですが、理念というものは誰もが共通して認識できるものではないか。ひとの誤解をうむ理念は本当の理念じゃないかなと。

■会長

アメリカのニューヨークでは、人の遺体も焼却はやめて堆肥化して、まさにめぐっています。それ

ぐらい世界はどんどん変わってきているんで。

■委員

最初はそういうイメージでした。生まれ変わるとか、そういうこともリサイクルと一緒に人も生まれ変わる、というのも入っているのかなと思いました。

■委員

スローガンのように、言われているみたいに「人と資源がめぐる」とするから、幅広にかまえてしまったから伝わりにくくなったので、「人と」を削除したらだめなんですか。「資源がめぐる持続可能なまちづくり」というところでまちづくりの中に成長とかが生まれてくると思ったら。

「それって本当にごみ？」っていうのを残すなら資源循環という部分は残さないといけないと思うんですよ。

■会長

コミュニティ、それこそ既存の自治会だけではない、形は色々あっても、人のつながりというのがここに込められているというのが事務局から話しがあったと思うんですが。

■事務局

自治会には、目に見えないところの役割、役員をすとかだけではない、それがあることによるありがたみというのが結構あると思うので。

■委員

最後の「まちづくり」が主題というか、大きいと思います。まちづくりをするには人が資源をめぐらしながら、まちづくりができていくというイメージを読み取ったので、ぼく自身はこれでいいなと賛成意見というか、推しというかこっちがいいという意味です。

■会長

下校中の中学生がカラスが散らかしたごみを片付けているのを見て感動しました。

■委員

それがカッコいいと思う子が増えてきましたね。「いいかっこして何してんの？」ではなく、別の子が「エコウォーカーのあれ、先生、ないですか？」みたいな感じで。あげよう、あげようって。

■会長

色んな意見が出ましたけれど、推しの意見も出ましたね。他はどうでしょう。

■委員

私は環境基本計画で、地球温暖化対策計画も策定する委員に入っているのですが、環境問題の啓発については統合的な啓発をしてほしいという気持ちが出てきました。例えば、地球温暖化対策計画の方では 2050 年カーボンゼロ、というのが出てくるわけですが、カーボンってなんや？わからん、となりますし。こちらの方はゼロエミッション計画ですからまたちがうんですが、一般の市民にゼロエミッションってなに？っていわれたらわからない。ただし、ゼロというのは目立つ、と。

プラスチックゼロも当然すでにやっているし、今度新しくフードロスゼロというのも出てくるわけです。そういうなかで、統合的な広報をやるなら、今玄関入ってきたらわかるように、プラスチックゼロという看板もあるし、ゼロというマークをもっと活かしていただきたいというのがわたしの素朴な気持ちです。

ただ、あれを使う場合、下の方に「プラスチックゼロ」というのが入っていますので、意匠登録があるせいか、なかなか提携が効かないかわからないですけれど。これだけ、カーボンゼロにしないといけない、ゼロエミッション、プラスチックゼロ、フードロスゼロと書いたときに、あのマークを使って下の方に文言を付け加えるなんかしてですね、活かして、亀岡はそういうまちづくりをやっていくんだという、ゼロエミッション計画よりもひとつ上の段階の広報だと思うんですがやっていただきたいと思います。

例えば、ゼロエミッション計画なのに、なんでプラスチックゼロのマークがどこにもでてこないのか、と素朴に思ってしまいますし。逆に外部のコンサルがみたときに、地球温暖化基本計画の方では亀岡さんこのマークあるよ、いやこれはプラスチックゼロや、いやカーボンゼロを目指していたらこのマークになりますよね、と言う話になる。そういう風に、統合的に広報してもらって、亀岡っていうのはこれだけいろんなことやっていて、みんながそれを目指してやっているんだ、という風に単純にいきたいというのが素朴な気持ちです。

それぞれの計画に入っていくと難しいので細かい話はいりませんが、一段高いところで広報していただきたいと思います。

それと広報する場合に、どうしても参加したい人はいますけど、上の 20%の人たちは、こういうことに関心が高い人たちがいるわけですね。そういう人たちを引き込んでいくためには、そういう人たちの大事にするやり方、それは何かというと、施策の方にも出てきていないんですけど。どの計画も同じで、例えば、先ほどの地球温暖化基本計画にしても、どんなにカーボンゼロの施策をつくったって、どうやって関心を高い人を増やして進めていくか、フードロスも同じなんです。それに加えて亀岡市は SDGs 計画も持っているんですよ。SDGs 計画は全部を包含しているんですけども、そのなかで亀岡市がやっている SDGs パートナリーシップ制度があるんですけど、それにどれくらい参加している人がいるのか。でも、それだったらパートナーシップ制度というのをもっと拡充して、カーボンゼロを目指す個人さん事業者さん、これに参加してください、ということでここに登録しましょうよ、とか。それから、フードロスゼロを目指す会社さん、例えばそれは、レストランだけじゃなくていいと思うんですよ。事業者さんだって、食堂で会社の従業員さんにいっぱい弁当を残されてはだめなわけです。他の事業者さん、学校もどこも病院だってそうですよ。フードロスゼロを目指すと言ったら登録してくださいというパートナーシップ制度、そういうのを作

ってその中で、カーボンゼロもフードロスゼロもゼロエミッションも、そこで登録するようなパートナーシップ制度というのを作る。さらに個人も参加したかったら、町全体でそういう登録者を集めているのだから、エコウォーカーみたいにそういう人を登録するような制度。そういう風にして、それぞれの計画を推進していく。ちょっと私はそういうイメージを持っているので、それぞれの計画ではなくて、統合的に広報なり啓発活動を進めていってほしいなと思います。

具体的に言うと、パートナーシップ制度というのを施策の中になんとかからめて各計画のなかで入れていただきたい。

■会長

地域の衛生自治会的なものも、そこに関わってくるかもしれませんね。古風な名前ですが、それこそ SDGs パートナーみたいな。その中の、地域のごみ出し部門ですよ、みたいな。市のほうで、上位の取組について確認してもらって、それに合致するような提案をお願いします。

■事務局

当然、計画をたてて終わりではなく、たてた計画をどう育てていくか、ということも必要だと考えています。

■委員

西暦で中身は書いてもらうほうがいいと思います。国や色々なところって元号で書かれています。市民感覚でいったら、本屋行ってもどこいっても西暦で書かれているし、子どもたちも世界基準で色々なことをみているので。国も市町村も色々な形のものを書くでしょうけど、中身は西暦で整えていただいたほうが見やすいです。環境の問題は国際基準の話ですから。どうしても調整が必要であれば併記でもいいですが。かがみのところはこれでいって、中身の部分は西暦で書いてもらった方が私たち市民としては分かりやすいです。

■会長

あるいは、いわゆる論文書くときなんかでも、二千何年、かっこ、平成何年とするとか、ですね。

■委員

統一してもらわないと。例えば、「平成何年っていつだったかな」みたいに計算しないといけないでしょう。それが西暦だったら、追いやすく、見やすいです。かがみやらは併記で、中身は西暦にしてほしいです。

■会長

他はいかがでしょう。集団回収はずいぶん減ってきているという話でしたが。集団回収があること自体をご存じない地域、それこそ自治会が実質的に機能してなくて、とか。PTA きんはどうですか。

■委員

家は南つつじヶ丘ですが、子どもが東別院のほうに通わせていて、地域のことと小学校のことと別なんです。南つつじでは、月に 1 回、玄関の前に出しておいたら業者が段ボールやなんかを回収してくれるが、東別院では年に 2 回、学校で地域の方にご協力いただいて回収をしているという状況なんです。

今、地域の方が減少してきていて特認で来ている方が多くなっているという状況で。地域も幅広いので、特認で来ている方は場所がわからないという人もいて、今年小学校の PTA をしているが、今年度からやり方を変えようと業者に依頼して、各地域に集めてもらって回収に言ってもらおうという風にやり方を変えていくことをやっているんですが、なかなか根付いている方は今まで通りの出し方をしているという困るということもありますので、まわりの人がサポートしてうまくやり方を考えているところです。地域の方はこどもたちのために、と協力してくれて助かっています。

■会長

両方やっていたら両方みれて楽しいですね。どうですか、南つつじでは、いわゆる新興住宅地ですけれど、今後、例えばごみの分別が変わります、という話も今日の資料にはありますが。

■委員

そういった話は回ってきていないです。南つつじに住んで 15 年くらいで、1 つ下の筋にはちゃんとした広めの集積場があるんですが、自分たちの住んでいる場所では自宅のかべのところにだき出させてもらっている集積所もあって、ごみを出してネットをかけてもカラスがつついて散乱している悲惨な状態も夏場は多くて。周りの人が考えてくださって、百均でかごをつくってくれて、そこに市に少し補助を出していただいて、それの上にネットをかぶせたらカラスがなくなったとか。違う日にだすと、張り紙をされていたりするんですが、それがあからさまなからこそみんながちゃんと守ろうと思えるかなと思います。

■会長

地域とどう分別の周知をするのか、とか。今後あたらしく分別、どう周知していくのか、市役所も色々と考えてくださっていると思いますが、どうやって広めていくのかみなさんも作戦を考えていただいたら嬉しいなと思っています。まだ全くの素案で、過不足色々あるねという話もしていたのですが。

多分、新しく分別を区分変えると言うことで、今後パブコメでもこちらに関するご意見もでるんじゃないかなと思いますが、簡単にご説明いただいてもよろしいですか。

■事務局

ちらしにありますように、令和 5 年 4 月 1 日からのごみ分別品目を増やそうとしています。
－資料「令和 5 年 4 月 1 日から亀岡市のごみの分別が変わります！」に沿って説明－

ただ、説明会なんかでは、「紙と木、プラスチックと金属だけお願いします」と言っても「わからへん」と言われる方も結構多いので、苦慮しているところです。

■会長

ちなみに、市長へ説明していた際には、「傘と家電製品を埋め立てるしかないごみの区分って良いの？」という指摘も、同じことを私も言ったんですけども。

■事務局

積極的にそれらを分解して金属部分とプラスチック部分を分けて出せるようにするというような方もおられたりします。新しい質問も来ていて、徐々にバージョンアップしながら。

4月1日から変えてくださいとは言っていますが、すぐにうまくいくとは思っていない。出されている状況も見ながら、説明会を準備して続けていきたいと思っています。

■委員

いちょうの葉っぱがものすごく落ちているのですが、月1回だったら難しいのではないのでしょうか。

■会長

落ち葉の時期などの、季節的に、どっさり出るようなものは、あるいは夏の草刈りなど、季節的なものについてなにか対応は考えられておられるのでしょうか。

■事務局

検討中です。公社の協力もいるので調整中です。確かに季節性のあるものというのは結構あったりします。

■会長

ご自宅の敷地内を基本的にはイメージされています。今おっしゃったような道路や河川敷とかの、よくあるのは地域みんな草刈りなんかをするというのは、別の話？

■事務局

地域清掃の持ち込みごみは分けています。

■会長

例えば、歩道の銀杏の葉っぱをボランティアで回収してくださったとき、次の月1回回収まで日がある、なんて場合には別途。

■事務局

ボランティアでお世話になったり、地域清掃でお世話になって緊急性のある場合は、連絡もらったら回収にいきますので。

■会長

例えば、ボランティア清掃やボランティアの草刈りなどについては別途ご相談くださいと書いてもいいですね。

■事務局

草木、剪定枝とかはいっぺんに大量に出たら、回収はしていなかったが、この件に関しては資源ごみとしてある一定、多量であっても回収するというのが基本になっています。

■会長

ひもで束ねるひもは、何のひもでもいいですね。

■事務局

いまのところは。

■委員

街路樹であったり、公園の樹木のごみを地域の方が清掃して来られた場合は、その管理者が処理するとかの仕組み作りが必要だと思うんです。地域の人が集めたからごみ処理や、というのではなくて、施設を管理する人らが、むしろボランティアでやってもらったわけやから、もっと積極的にそこに事業者を行かすといった仕組み作りが大事なんじゃないかなと。

■事務局

街路樹なんかは都市整備が都市緑花協会と連携してそういった処理をえています。その辺を強化していく必要はあると思います。

■会長

一般の人が、この道路はだれが管理者なのかわからないので、資源循環課に電話したら、あとは市役所が手配してくださるみたいな。

■委員

エコウォーカーとしてごみを拾ったときに、エコウォーカーひとりひとりが始末しなきゃいけない状況だとも思うんですけど、どこかに集めて置いていい場所があったらいいなと思っていたんですけど。ごみを拾ってもどこに置いたら良いかわからないし、気軽に拾えるようになったらいいなと思います。

■事務局

確かにその通りだと思います。ばい捨てごみの可視化ということで情報を集めながら、多いところにはごみ箱設置ができないか分析しながら考えてはいます。今後状況を見ながら、ごみ箱というよりは資源回収ボックスという名称で置いていきたいなど考えてはいるんですが、どうしてもこれは、というときはご連絡いただいたら行かせていただきます。

あと4駅にはごみ箱があるんですけど、名目としてはそういうばい捨て用のごみ箱で、普通のごみ箱とはちょっと違う意味ですので、そこに入れてもらったら大丈夫です。

■会長

道路のいちょうの葉っぱなど、ボランティアごみで処理に困る際はご相談くださいと、わりと大きく明示してください。

■委員

事業者についてはこれから実態を調査するとあるんですが、事業者に対する指導方法で事業者が出すものについては、プラスチックや紙をいれんといてね、という話になると思いつながら聞いています。いろんな事業者がいるので、指導の仕方がわかったら伺いたいと思います。

■事務局

当然、事業者方にもお願いというか、もしかしたらそういった指導も入れないといけないかもしれないですし、収集している業者に対しても市の方から指導していくみたいなこともあります。結構、事業系のごみの方がいい加減という部分があるので。

■委員

かなりいい加減だと思います。ちらしの裏側にでも別途事業ごみについて書いておいたらと思います。

■会長

みなさん雑がみというのがずっとわかりますかね？結構何でもかんでもOKなんですけれども。

■委員

完全にやらせようと思ったら、目の前に置いてこれをやらなきゃいけないよ、としないと分からないですよ。

■事務局

古紙回収では、新聞とか広告、雑誌は集まるんですが、プラスチックコーティングされているものはだめなんですけど、お菓子の箱なんか紙袋に1か月ためたら結構たまるんですよ。ティッシュの

箱なんかもそうです。

先ほど集団回収が減っているというお話がありましたけれども、実は古紙回収業者も危機感をもっておられて、集団回収には協力的に動いてもらえると聞いています。一時的に置くケースも貸してくれるとかも考えてくれているようなので、御不明な点があれば連絡をしていただければおつなぎしますので。

■委員

プラスチックコーティングされているような紙もあるので、本当にやり出したらどうして良いか分からないものも次から次へ出てくるんですよ。わかるような形にしないといけないなと思います。

■会長

ご提案があるんですけども。万博の関係で一緒した会社で静岡にコアレックス信栄というのがあるんです。芯なしのトイレトーパーを最初に開発した会社で。プラスチックでコーティングされているとか、ジュースなどの紙パックはアルミ蒸着で今までリサイクルが難しかった紙も、後発の紙のリサイクル業者なので、リサイクルが難しかったところを積極的に取り組まれています。

例えば、そういう企業を市内の古紙回収業者とおつなぎして、今までだったらリサイクルできません、としていた紙を一定集まったものをそこに送ればリサイクルできるので。そういったことをして品目を拡大していただくとか、いますぐは予算の関係もあって難しいかもしれないが、工場見学も受け入れておられるので、折を見て審議会のみなさんと見学して亀岡やったらどうやったらできるかとか考えていけたら。あるいは事業者さんもいっしょにいくとかもね。みんなで行って、道中で議論していろんな意見も出ると思いますので。そういうのも是非今後の計画の中でも。いますぐじゃなくて結構ですが、調査も計画には入っているので、みんなで行ってわいわいと議論できれば市民目線のアイデアも出てくるんじゃないかなと思います。

■事務局

予算の関係もありますので、できるかどうかはわかりませんが、検討させていただきたいと思います。

■委員

ちょっとお尋ねしたいんですけど、自分の実家が兵庫にあるんですけど、ちょっと前に分別が細かくなったときに母親が困っていて、ティッシュの箱もプラスチックをはがさないといけないとなって、家のなかにいっぱいごみ箱があって、亀岡でもそうになっていくわけですよ。皆さんのお家ではごみ箱のスペースはどういうふうにお考えでしょうか。ましてや紙類はたくさん出るのに月に1回しか回収にこないとなるとどの程度たまるのか。たまたま実家には使っていない車庫があるのでごみ箱がたくさん並べられるけれど、住宅街だとごみ箱を置くスペースがないです。ごみの置き方とかどうしようかなと考えているんですけども。皆さんがどういう風にしていこうとしているのか、お聞きしたいです。

■委員

やはり収集場所がないと困ります。私の場合では子供会では月 1 回しか、紙類とか雑誌類とか段ボールとかは集めてくれないので。私はちょっと離れたところの福祉会に倉庫があるのでそこで収集してくれているのでそこに持っていきます。そういう場所があれば、なんとかなると思います。亀岡なら、日本紙業とかが紙類とかやっているのでもそこに持っていくとか。

自分のところでは圧縮して小さくためる工夫しています。並べるのではなく縦に積み上げるという形で区分するという工夫も必要だと思います。分別は仕方がないと思ってできるだけ工夫していくしかないと思います。

■委員

私はごみ箱は 1 つしかなくて、あとは紙袋に分けて入れるようにしています。段ボールは立ててくくってためています。ごみ箱をたくさんおかなくていいようにしています。

■会長

みんなのやり方を見せ合ったらおもしろいですね。

■委員

母は台所に吊るやつに、紙とプラスチックとその他の 3 つくらいを置いていて、それを最終的に車庫にもって行って大きなごみ箱に分別して入れていて。それをみていると、分別の仕方が市によってちがうので、お正月に実家に帰るとごみの分別を聞きながらやらないといけないのが苦痛で。おやつとかも、子どもがいるとすごい出るので、ごみの量が多くてどうしようかと。

■会長

回収率が 80%を超えている自治体が 4 つあるといいましたけど、そういうところの成功の秘訣は、収集はないけれど、毎日だせる場所が公民館などにあって、45 分別あるんですけど、そこに持って行って出す、そういう方法。亀岡市くらいの規模になると、それだけというのは難しいと思うんですけど、家庭に広い敷地があるわけでもないし家に置いておくと困ると言うこともあると思います。公民館や文化センターに常に持って行けるというのと併用していくことがこれから必要かもしれないですね。

■事務局

説明会をしているとよく言われるのが、紙をそういう形で出すと集団回収が減って、補助金が減るという部分もあって。

■会長

紙類月 1 回というのが、集団回収されている地域ではすでにやっているけれど、それは引き続き

やってもらって。

■事務局

それはもちろん、言っておりますが、それでも可燃ごみに 13%~15%くらいは入っているのは事実なので、それをなんとかしたい。

■会長

集団回収をされている地域でも、それとは別に市の行政回収として月に 1 回の紙ごみ回収が行われているということですよ。それをやめたらどうですか。つまり、集団回収のなかに雑がみも入れていいんですよ、という広報をしっかりと。例えば、うちの町内では集団回収もありつつ市の回収もある、では月 2 回の回収があるということになるが、それでいいのかな。それは、うちとしては家にたまるごみの量が減るので嬉しいと言えば嬉しいんですが、先ほどの補助金が減るといった痛し痒しの話を考えると。

■事務局

うちとしては燃やすごみを減らしたいので、どちらでもいいんです。みんながみんなどちらに偏ってくれるわけではないので、最終的な手段として併用でするしかないかなど。

■会長

では、町内の貴重な財源やし、新聞なんかは可能な限りは集団回収に出して下さいねとして各町内でやってもらって、それだけでは追いつかない場合は市の回収へ出してもらっても良いですよ、と。そのあたりをうまく説明していかないと、理解ができないかもしれないですね。

■事務局

逆に自治会さんのほうで集団回収を再度改めてみなさんで決定する、なんてことは皆さんおっしゃられている。

■委員

もともと、うちんかがやっているのは、新聞と段ボールとアルミ缶だから。それ以外の色々な紙類だったら、連絡を入れてもらわないといけないし。それぞれケースがあると思います。

■事務局

自治会の集団回収のあとに市の回収があるというサイクルになるようには配慮している。一部できていない部分があって見直さないといけない部分があるかもしれないが。

■委員

新聞、雑誌、段ボールは町内会ですんじやないかなど。厄介なのは、本当の雑がみで封筒など

の細かいやつ。みなさんが集めることをやってくれるかどうか。次に困るのは、プラスチックと紙のごみ。こういう細かい部分になると皆さん悩むことになると思います。私も、これはどっちかな、といまだに悩むので、その辺をどうやって浸透できるのかなと個人的には思っています。大物に関してはみなさんやっておられるので。

■事務局

当然、皆さん分からないと言うことで、色々な出し方をされると思います。うちも組成調査をしていくので、その結果をみながら、うまくいっていないところは改善しないといけないな、とかのグレードアップ、バージョンアップして考えていきますので。

■委員

雑がみに入らない紙ってなんですか？

■会長

使ったあとのトイレトペーパーとか、ティッシュとか。ほぼ雑がみです。

■村山委員

裏にカーボン紙が入っているものとか、紙によっては全然資源化できないものがあるんですよ。

■会長

そういうものも技術的にはできるような会社がでてきているのですが、カーボン紙とか感熱紙とかも、いまの亀岡市で収集してくださっているような会社、全国の多くの業者では燃やすごみにしておられる。でも、本当はそれもできる。コストの問題だけで。それをどこまでやっていくか、ということできっと皆さん悩まれる。

■事務局

説明会で話をしているのは、やぶりにくいかどうか、コーティングされているような紙はやぶりにくいので。説明会で配布するパンフレットには雑がみのところも明示しながら説明しています。

■会長

京都市はこれを始めて、家庭からのごみを一気に減らしました。ちなみに紙コップは実は内側がプラスチックなので通常は古紙回収に向かないです。

■委員

使い捨てプラスチックをやめてイベントなんかでリユース食器を使いましょうと、秋のイベントでカレーライスを出していたんですが、見ていてあっと思ってしまったんですね。確かにリユース食器を使っているがそれを拭くために紙タオルを膨大に使って捨てているんです。確かにプラス

チックは減らせられるかもしれないけど、紙ごみが増える。これはカレーが付いているから燃やすしかない、という話になる。そんなことやるなら、使い捨ての紙製の食器でいいと思いました。

■会長

市のリユース食器なら、紙タオルで拭かなくていいので、アナウンスが必要ですね。

■委員

そうなると、有機物が水の方に行ってまた洗浄するときに水の汚染になります。

■事務局

基本的に今の仕組みは業者さんが帰り洗浄してもらって、また使えるようにしてもらおうというサイクルでやっています。その場で洗うというのは、少し。

■会長

リユース食器の普及というのと併せてやってもらって。皆さん、きれいにしてかえさなあかんと考えている人もいますので、しなくてもいいですよ、とアナウンスが必要ですね。リユース食器を地域のイベントなんかでどんどん活用していってくださいという風に、この機会に広めていく必要があります。

■委員

透明な袋というのは、大きさは関係ないんですか？

■事務局

45Lまでなら。

■会長

ひもでくるとあるが、せっかくならホームセンターで紙製のひもも売っているの、各ホームセンターと連携して宣伝してもらって、それを通じて皆さんに知ってもらいたいですね。

■会長

他によろしいでしょうか。

たくさん今日もご意見いただきましてありがとうございます。この後、今日頂いたご意見を反映してもらって、この後また見せてもらえるということですね。

言い忘れたということがあれば、早めに事務局にお伝え頂ければと思います。

■事務局

事務局の連絡事項ですけれども、このあとパブリックコメントを集めて、そのあと 2 月末から 3

月の頭にかけて審議会を開催したいと考えています。可能な日程候補日を送りますので、返信をよろしくお願いいたします。それを踏まえて、皆さん参加しやすい日を選びたいと思います。

■会長

先ほど、冒頭でもお話ししましたが、3月1日の京都市のごみ減量推進会議のちらしをお配りしましたが、スーパーの売り方を調査されて、亀岡のマツモトにも協力してもらったのですが。ちなみにヨーロッパでは、去年からフランスが、今年のお正月からはスペインが野菜などのプラ包装禁止になっていて、日本ではまだこれからというところ。結構面白い事例なども各社あるということで報告会が3月1日に開催されるとのことです、ご都合よろしければご参加ください、ということで本日はチラシをお配りしました。

■事務局

会長、ありがとうございました。以上で、第53回亀岡市循環型社会推進審議会を閉会させていただきます。皆様、ありがとうございました。

(閉会)

以上